

都市再生整備計画(第3回変更)
リニア駅周辺地区

長野県 飯田市

令和8年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	ながのけん 長野県	市町村名	いいだし 飯田市	地区名	リニア駅周辺地区	面積	61.1 ha
-------	--------------	------	-------------	-----	----------	----	---------

計画期間	令和 5 年度 ~ 令和 9 年度	交付期間	令和 5 年度 ~ 令和 9 年度
------	-------------------	------	-------------------

<p>目標</p> <p>大目標: 南信州の広域トランジットハブ空間によるまちなかの魅力向上と周辺地域の住環境の向上を図る。</p> <p>小目標①: リニア駅周辺の整備による居住空間の魅力向上</p> <p>小目標②: リニア駅前空間の整備によるエリアの活性化と賑わいの創出</p>
--

<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)</p> <p><都市全体の再構築方針></p> <p>本地域は、南アルプスや中央アルプスを望む信州・伊那谷の南部に位置し、三州街道や天竜川の交流を通じ、東西日本を結ぶ文化の要地として発展してきた。また、旧来から農業等を生業として、田んぼや集落が点在する田園環境を有する一方、交通の要衝としての地理的条件と、進取性と学究性に富んだ市民の気質が、食文化や人形劇文化等の信州・伊那谷の魅力を育んできた地域である。</p> <p>近年、人口増加から人口減少時代へ、そして高度成長時代を経て成熟社会へと移り変わる中で、当地域においても人口減少や高齢化は免れず、2015年から2040年にかけて10万人から8万人へと2割程度の人口減少が見込まれ、高齢化率も2040年には飯田市全域で35%以上となる見込みとなっている。また、居住の郊外化、市街地の低密化も見られ、その対策が急務となっている。</p> <p>一方で、東海旅客鉄道が2027年に東京-名古屋間の開業を予定している「リニア中央新幹線」の中間駅が当地域の上郷・座光寺地区に設置されることとなり、人、モノ、情報等の交流と交通利便性が飛躍的に高まることから、リニア中央新幹線が形成する7000万人の経済圏域(スーパーメガリージョン)がもたらす大規模な対流や急激に進化した情報通信技術などによる大きな社会変化を好機と捉え、多様な主体の参加と協働による各分野の施策を展開し、「みんなで実現したい暮らしとまち」の姿に向けたまちづくりに取り組んでいるところである。</p> <p>当市は「山」・「里」・「街」でそれぞれの暮らしが営まれ一つの都市を構成しているが、都市構造を見渡し「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方で、住宅と生活サービスに関する医療、福祉、商業等の利便施設がまとまって立地でき、公共交通と連携したまちづくりを行うため、令和元年12月に飯田市版立地適正化計画にあたる「いいだし山里街づくり推進計画」を策定し、土地利用基本方針及び第3次飯田市計画に掲げる「拠点集約連携型都市構造」を具現化するため、中心市街地や丘の上エリアを「中心拠点」、リニア中央新幹線長野県駅周辺エリアを「広域交通拠点」、観光資源豊かな天龍峡・遠山郷のエリアを「交流拠点」、そして当市20地区各地の自治振興センターや公民館を「地域拠点」とし、それぞれの方針や有機的な相互連携を図ることとしている。</p> <p>本計画では、2027年以降のリニア中央新幹線開業に向けた気運の高まりを契機として、周辺のまちなか居住空間の魅力の向上を図り、リニア中央新幹線開業の際には南信州の広域トランジットハブとしての機能が最大限に発揮できるように取組みを推進する。</p>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p><経緯></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅周辺地区の整備は、東海旅客鉄道株式会社が2027年度(令和9年度)に開業を予定しているリニア中央新幹線の中間駅である長野県駅の駅周辺エリアを整備する事業である。 ・リニア駅が設置される上郷・座光寺地区は、住宅地と農地が併存し、野底山に象徴される美しい自然景観に恵まれ、黒田人形浄瑠璃や飯沼諏訪神社の御柱祭など地域の伝統文化が今でも継承されている地域である。 ・本整備は、「国土ブランドデザイン2050(国土交通省 平成26年7月策定)」、「長野県リニア活用基本構想(長野県 平成26年3月策定)」、「リニアバレー構想(伊那谷自治体会議 平成28年2月策定)」、「リニア将来ビジョン(南信州広域連合 平成22年11月策定)」、「いいだし未来デザイン2028(飯田市 平成29年度策定)」、「飯田市土地利用基本方針(飯田市 平成27年10月策定)」、「飯田市立地適正化計画(飯田市 令和元年12月策定)」等の計画に関連し、飯田市の都市計画区域における広域交通拠点として位置づけられている地区である。
<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅の設置に伴い、必要となる都市基盤施設の整備と周辺地区のまちづくりを結び付けていく事が求められ、南信地域のトランジットハブ機能と地域の魅力向上が両立できるよう整備を進める必要がある。 ・開発に伴って増加する交通量に対応した道路整備や雨水排水に対応した流出抑制施設等の整備が必要となる一方で、地域の履歴を残しながら地域住民や来訪者の安らぎや憩いの場となる広場や魅力発信施設の整備を行う必要がある。 ・リニア中央新幹線が整備されることで、コミュニティの崩壊や伝統文化の維持に支障をきたす可能性があるため、整備する交流広場を活用したイベントの開催やワークショップ等の実施により、地域住民の満足度を確保する必要がある。 ・リニア中央新幹線が整備されることで、関連した道路整備や商業施設等の移転が行われるため、地域住民への説明を丁寧に行い、理解を得ながら事業を進める必要がある。 ・リニア中央新幹線が整備されることで、大都市へ人口が流出する「ストロー現象」を引き起こす可能性がある。
<p><将来ビジョン(中長期)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅周辺地区は飯田市土地利用基本方針(都市計画マスタープラン)に掲げる「拠点集約連携型都市構造」を推進する計画の中で、中心拠点や交流拠点を結び「広域交通拠点」として位置づけられている。 ・信州・伊那谷の豊かな自然環境に抱かれた南信地域のトランジットハブであるとともに、来訪者のおもてなしと地域住民の賑わいを両立した「人が主役となる駅」を実現する。 ・リニア駅の整備に伴い、周辺エリアの魅力向上や賑わいを創出する。

<p>都市構造再編集集中支援事業の計画</p> <p>都市機能配置の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化計画の中で各地へいざなうための「広域交通拠点」と定めたことから、南信地域のトランジットハブ機能を有する都市機能を整備する必要がある。 ・地域におけるコミュニティ活動を推進するため、様々な方が利用しやすい快適で居心地の良い高質空間として整備を進め交流活動の促進を図る。また、様々な方が利用することによりにぎわいを創出し、魅力のあるエリア空間として整備を行う。 	
<p>都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場は地域住民の憩いの空間として整備するとともに、イベントも可能なスペースとしても整備し、にぎわいの創出を図る。 ・広場や駐車場にはグリーンインフラとしての機能を持たせ、豪雨時には氾濫調整池としての機能を持ちつつ、平常時には四季を感じられる空間として整備を行う。 ・地域の特色あるイベントを開催することで、伝統文化の継承にも寄与し、持続可能なエリア価値を創出する。 	
<p>都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅前線(社会資本整備総合交付金 街路事業):都市計画決定を受け、リニア中央新幹線長野県駅(仮称)の南側に新設され、県道市場桜町線と国道153号を繋ぐ路線。機能的でコンパクトな駅空間の形成の役割を果たす。 ・リニア駅前停車場線(社会資本整備総合交付金 街路事業):都市計画決定を受け、リニア中央新幹線長野県駅(仮称)の北側、駅前広場の中に新設される路線。乗換機能や各地へ誘うための交通結節点としての役割を果たす。 ・市道上郷492号線 土曾川横断道路(社会資本整備総合交付金 道路事業):座光寺上郷道路から、土曾川を横断して駅前広場に侵入するための新設道路。機能的でコンパクトな駅空間の形成の役割を果たす。 ・市道上郷489・490号線(社会資本整備総合交付金 道路事業):県道市場桜町線と国道153号、代替地エリアと国道153号を繋ぐ役割を果たす。 ・市道上郷35・483・484号線(社会資本整備総合交付金 道路事業):リニア本線により分断される市道の付替および機能の回復として役割を果たす。 ・市道上郷9号線(社会資本整備総合交付金 道路事業):国道153号の道路改良による市道の付替および機能の回復として役割を果たす。 ・市道上郷113号線(社会資本整備総合交付金 道路事業):リニア本線により分断される市道の付替および機能の回復として役割を果たす。 ・市道座光寺283号線(社会資本整備総合交付金 道路事業):リニア本線により分断される市道の付替および機能の回復として役割を果たす。 	

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
飯田市に住み続けたいと感じる市民割合	%	都市構造再編集集中支援事業エリアに居住する市民に基礎世論調査を行い、「これからも飯田市に住み続けたいと思うか」の問いに対して、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合を集計する	都市構造再編集集中支援事業エリアにおいて、これからも飯田市に住み続けたいと感じている市民割合が増加することで、懸念されているストロー現象の可能性の把握やリニア駅周辺地区に関する満足度を確認する	82.4	R5	86.0	R10
「駅前広場」の賑わい創出	回/年	リニア駅周辺地区で整備を行う「駅前広場」での賑わいを測るため、イベントの開催数を集計する。	広場の整備がイベントの開催などの賑わい創出に寄与しているかを確認する	0	R5	6	R10
建物の新築件数	軒/年	都市構造再編集集中支援事業エリア内における、建物の新築件数を集計する	立地適正化計画の居住誘導区域において、リニア駅の整備や関連して行われる道路改良等の都市基盤整備による効果を建物の新築件数で確認し、周辺エリアの魅力向上	59	R3	65	R10

整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1：エリア周辺の居住環境の向上</p> <p>■駐車場や周辺道路の整備により、南信地域のトランジットハブを形成する。</p>	<p>■基幹事業 北側駐車場</p> <p>■基幹事業 駐輪場</p> <p>□提案事業 モビリティプロジェクト</p> <p>□提案事業 エネルギープロジェクト</p> <p>○関連事業 リニア駅前線</p> <p>○関連事業 リニア駅前停車場線</p> <p>○関連事業 上郷492号 土曾川横断道路</p>
<p>整備方針2：エリア周辺の活性化と賑わいの創出</p> <p>■広場や大屋根の整備によりエリア周辺を活性化し、賑わいを創出する。</p>	<p>■基幹事業 北側交流広場</p> <p>■基幹事業 南側交流広場</p> <p>■基幹事業 木造の大屋根</p> <p>■基幹事業 地域交流センター</p> <p>□提案事業 事業組成プロジェクト</p> <p>□提案事業 トータルデザインプロジェクト</p>

その他

【整備方針について】

市民参加のワークショップを平成30年2月から12月の間に5回開催し、高校生から80代まで延べ150名の方に参加いただき、参加者のアイデアや意見を踏まえ、令和元年12月に「飯田・リニア駅前空間 デザインノート」が策定された。令和2年3月にリニア駅前広場のランドスケープ及び県産材を活用した大屋根等の検討を行う「トータルデザインプロジェクト」と、次世代モビリティの検討を行う「モビリティプロジェクト」やゼロエミッション等の検討を行う「エネルギープロジェクト」を組織し、学識者を交えた駅空間の整備検討を行っている。

また、令和3年度には地域の魅力や情報発信を行う「事業組成プロジェクト」の立ち上げを予定しており、各プロジェクトでの詳細な検討と、各プロジェクトが一度に集まり検討を行う推進会議による方向性の決定を行っていく予定である。

【都市計画決定について】

リニア中央新幹線の長野駅周辺の整備については、駅周辺の6.5haを整備する計画であるが、細かく分類すると下記の5事業に分けられる。

①リニア駅前停車場線交通広場(約1.1ha)

- ・令和2年10月 都市計画決定
- ・令和2年2月 事業認可
- ・令和2年度～令和9年度 社会資本整備総合交付金(街路事業)にて実施

②リニア駅前駐車場(約1.1ha)

- ・令和2年10月 都市計画決定
- ・令和2年2月 事業認可
- ・令和5年度～令和9年度 都市構造再編集中支援事業にて実施予定

③リニア駅前多目的交流広場(約3.3ha)

- ・令和2年10月 都市計画決定
- ・令和2年2月 事業認可
- ・令和5年度～令和9年度 都市構造再編集中支援事業にて実施予定

④リニア駅前線(約0.4ha)

- ・平成31年2月 都市計画決定
- ・平成31年4月 事業認可
- ・令和元年度～令和5年度 社会資本整備総合交付金(街路事業)にて実施

⑤県道市場桜町線拡幅(約0.6ha)

- ・長野県にて実施予定

【まちづくりの住民参加】

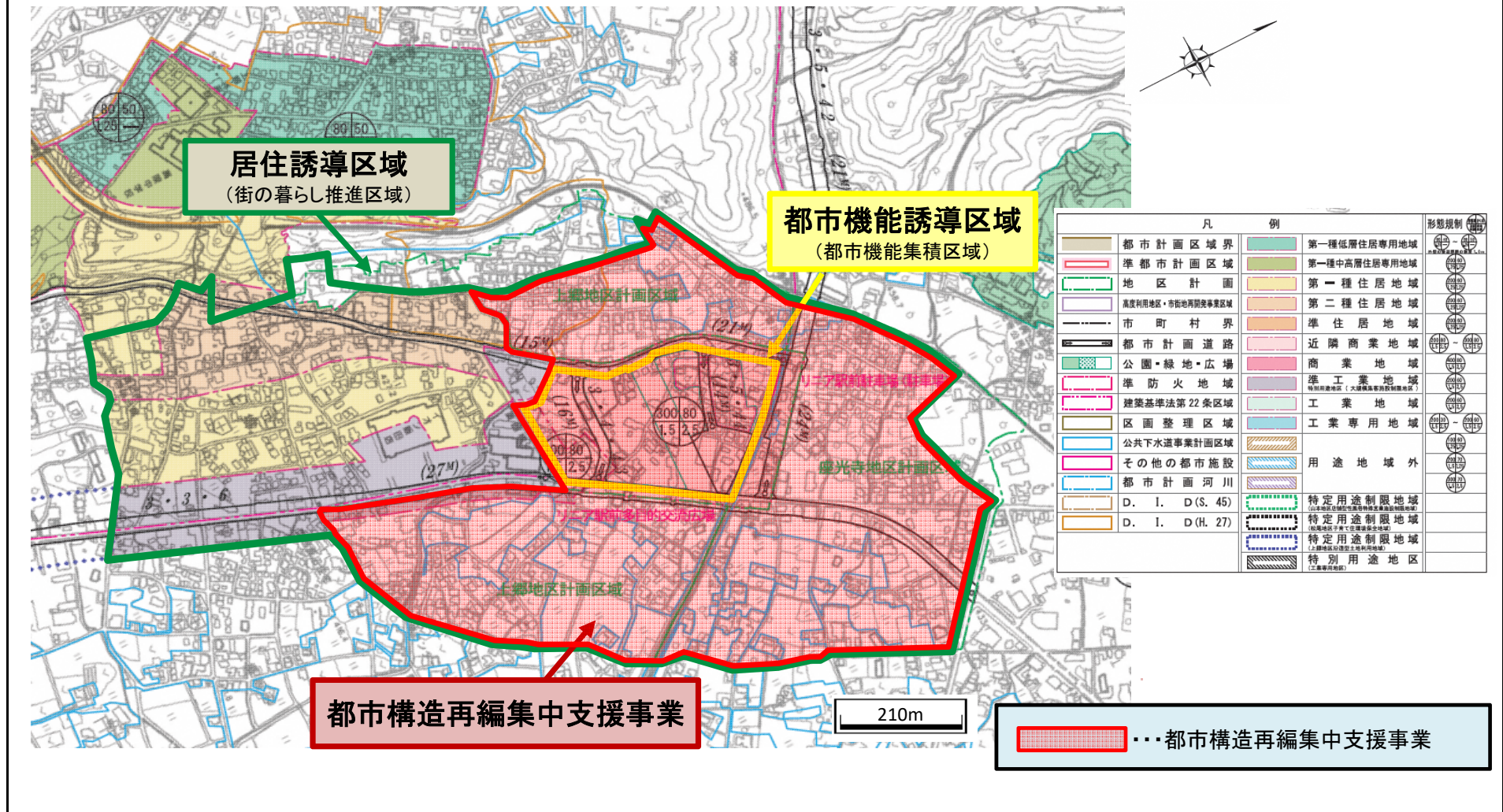
リニア駅周辺整備の検討にあたっては、住民参加のワークショップ等を行い、情報共有や機運醸成を図りながら整備検討を行っている。また、今後も実施設計や検討プロジェクトの共有、大屋根のモックアップを市民参加で作成するなど、地域の機運醸成とともに市民参加の整備検討を行っていく予定である。

リニア駅周辺整備により移転を余儀なくされた方の代替地を「低炭素街区」として設定し、その街区で生み出されたクリーンエネルギーをリニア駅周辺で活用できるよう検討を行っている。エネルギーを通じて間接的にも住民参加できる駅前広場を目指して検討を行っている。

地域の特色ある人形劇や獅子舞などのイベントを開催することで、当地域の伝統文化に愛着を持ってもらうとともに、若い世代の担い手の育成にもつなげる。

リニア駅周辺地区(長野県飯田市)	面積 61.1 ha	区域 長野県飯田市上郷地内
------------------	---------------	------------------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



目標	高度なトランジットハブ空間の形成によるまちなか居住空間の魅力向上を図る	代表的な指標	飯田市に住み続けたい市民割合 (%)	82.4 (R5年度) → 86.0 (R10年度)
			駅前広場の賑わい創出 (回/年)	0 (R5年度) → 6 (R10年度)
			建築の新築件数 (棟/年)	59 (R3年度) → 65 (R10年度)

